

公益社団法人日本動物学会 2020 年度第二回理事会

1. 開催された日時 9月3日(木) 16時00分~18時15分
2. 開催された場所 web会議システム(Zoom)による実施
3. 理事総数及び定足数
総数 20名 定足数 11名

4. 出席理事数 19名

(出席) 山下正兼・勝 義直・小金澤雅之・渡邊明彦・岡 良隆・兵藤 晋・加藤尚志・深津武馬・武田洋幸・稲葉一男・後藤太一郎・松田恒平・志賀向子・沼田英治・植木龍也・浮穴和義・岡田二郎・小柴和子・吉田 学

(欠席) 飯田 弘

(監事出席) 八杉貞雄・高橋 洋

理事出席者 19名、監事 2名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、岡良隆理事。議事録署名人は、定款 35条 2項により、岡 良隆会長、八杉貞雄、高橋 洋 両監事。

オブザーバーとして、新理事候補者、各委員会委員、倉谷 ZL 編集長の出席があった。

5. 報告事項

会に先立ち、先だってメールにて回覧されていた 2020 年度第 1 回理事会議事録が承認された。

1) 会長報告(岡 会長)

通常は年次大会前日に大会会場で実施するところ、コロナ禍でオンラインでの開催となったが、例年通り、理事会メンバー以外にも各種委員会委員のオブザーバー参加をお願いしたことが報告され、出席者に感謝が述べられるとともに、理事会メンバーの世代交代を進めるためにもこの仕組みを続けて欲しい旨希望が述べられた。

翌日の総会で任期が満了することが述べられ、次期理事に向けて事務的な注意点が述べられた。

2) 2020 年オンライン大会準備状況報告(岡 大会長)

コロナ禍により、米子での大会開催を延期し、オンライン大会としたことの経緯が改めて示された。大会規模は 1.5 日間に縮小したが、最終的に本部企画シンポジウム 1 件 3

演題，公募シンポジウム 3 件 16 演題，一般演題 250 演題となり，参加者は一般会員 333 名，学生会員 341 名，非会員 29 名，招待講演者 4 名，アルバイト 4 名の合計 711 名となったことが報告され，大会運営及び米子大会関係者への謝意が述べられた。

3) 2021 年米子大会準備状況報告（植木 理事）

米子大会は来年にスライドして 2021 年 92 回大会として開催することが改めて報告された。会期は 2021 年 9 月 2 日～4 日とし，当初の予定通り、米子コンベンションセンターと米子市文化ホールを使用することが関係機関と調整済であるが，懇親会はコロナ禍の状況次第で変更する可能性がある。準備委員会は今年度のメンバーが全員引き続き務める。鳥取県及び米子市の支援は引き続き需給予定であり，および今年度採択された科研期研究成果公開促進費についても，来年度へのスライド使用が可能なが報告された。

4) 2022 年東京大会準備状況報告（加藤 理事）

東京大会も 2021 年から 2022 年にスライドすることになり，早稲田大学の使用を改めて交渉していることが報告された。日程はまだ未定であることがあわせて報告された。

5) 2023 年山形大会準備状況報告（渡邊 理事）

2023 年に山形大学小白川キャンパスで開催すべく，準備中であることが報告された。

6) ZL 編集長報告（倉谷 ZL 編集長）

2019 年の IF は 2.07 であり，かろうじて 2 を維持していることが報告された。2020 年のこれまでの掲載論文数は 10 報であり，投稿数も 32 件で，過去数年のなかでは一番少なくなっている。投稿数の減少がコロナ禍の影響か，APC 有料化のせいかは今のところ不明である。2019 年以降の傾向として日本からの投稿が減っており，外国からの投稿の比率が高くなってきた。雑誌のクオリティと IF の維持のため，投稿と論文引用を積極的に行って欲しい旨，要請があった。

7) ZS 編集主幹報告（沼田 ZS-EIC）

2020 年当初から変更になった編集体制について，改めて説明があった。特に，動物学会員が少ないが投稿が多い分野のカバーのため，最近新たに哺乳類の行動生態を専門としている東邦大の井上先生を AE として加えたことが示された。IF 0.843 でほぼ横ばいである。今年から early view を始めた。直接 ZS の Web サイトから見るできるので，IF 等には一定の効果があると考えている。2020 年は 4 号まで出版済であり，5・6 号の内容も決まっています，年間 66 論文と例年通りとなっている。採択論文は，国別に見ると日本が一番多いが，その他では中国，韓国が多い。全体の採択率は 40% である。最終決定まで大体 1 ヶ月程度と比較的迅速に行われている。投稿数も大体安定している。

一方で，動物学会員が少ないマクロ分野（生態・行動、分類・系統・進化）からの投稿

が多く半分を超えており、受理論文は全体の 2/3 を占めている。この分野の偏りの善し悪しは判断できないが、これまで動物学会を支えてきた発生・生理・内分泌とかのミクロ分野が全部あわせても 1/4 くらいしかないのは残念であり、是非とも論文を投稿してほしい旨、要請があった。

8) 寄附委員会報告（小金澤 理事）

2019 年度の寄附は 136 件、総額が 2,715,400 円であることが報告された。6 月の会費納入時に併せてお願いしていることもあり、6 月以降の寄附が 94 件と大部分であった。2012 年からの状況を見ると件数がやや減っている。OM 賞の原資である大場さんや今回の茗原助成金のような、大口の寄付者に税額控除団体としてメリットを受けていただきたいというのが、寄付数を確保することの理由の一つである。今後も寄付数は維持する必要があるので、年会費請求時のお願いを続けるのと同時に、様々な広報活動を行う必要があることが示された。

9) 関東支部会報告（兵藤理事）

オンライン公演会の実例として、関東支部会で 2020 年 8 月 23 日に開催された公開講演会の開催・運営状況が報告され、今後の公開講演会のあり方やオンラインでの運用法について議論が行われた。

6. 審議事項

第一号議案 支部代表委員について

2020 年の選挙において、多くの支部で支部代表委員の割当てがなくなってしまい、激減してしまった。これは支部代表委員の定数を出す母数が各支部の一般会員数であり、昨年の定款改正で多くの定年後の会員が高齢会員に移行し、一般会員数が減少したことが直接の原因である。賞等選考委員会委員の選出母体である支部代表委員の数が減ることは学会にとって良いことではないため、支部代表委員の今後の職務も含め、今後どのような方策をとるべきかを議論した。今回は議論のみで留め、具体的な方策は次期理事会で検討するよう、申し送りすることとなった。

第二号議案 OM 賞等各賞の規程について

OM 賞をはじめ、多くの賞の選考規程に穴があり、賞金の運用における間接経費の取扱い等で授賞者に問題が生じさせていることが報告された。これも現理事会で決定するには時間が無いため、次期理事会執行部で原案を作成し、次期理事会で検討を進めるよう申し送りすることとなった。

○その他

本理事会を持って、理事・監事の任期が満了となるため、本期を持って退任する理事より、退任の挨拶があった。

次回（2020年度第3回理事会）は2020年9月4日（金）14時から開かれる社員総会での理事選出終了後直ちに、オンラインで開催する予定である。

令和2年 9月 3 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

議長 岡 良隆

議事録署名人 八杉 貞雄

議事録署名人 高橋 洋

